

「香川県の古墳時代中期をさぐる」

- 1 香川県の古墳時代前期の様相
- 2 古墳時代中期の様相
帆立貝形古墳
渡来系・外来系要素
- 3 埴輪
埴輪とは
埴輪採用器種の変化

はじめに

香川県の古墳時代中期に該当する古墳は、その総数が古墳時代前期及び後期に比べると格段に少なく、調査事例となるとさらに少ない。しかし、それらの古墳の副葬品や埋葬施設、墳丘形状などの情報から明らかとなった古墳時代中期の古墳の動向は、古墳時代前期以来の古墳分布及び前方後円墳の動向とは一線を画すことが知られている。

このような大きな変動があった古墳時代中期の香川県の古墳動向について、当該期の古墳や古墳の一属性である埴輪を取り上げ、その変化について紹介する。

古墳時代とは

「前方後円墳のほかにも前方後方墳、帆立貝式古墳、円墳、方墳などもあわせて、膨大なエネルギーや富が墳墓づくりに注ぎ込まれた時代」「前方後円墳は他地域ならびに前代のそれとの（首長）との共通性と階層性を、目で見えて了解できる記念物」（広瀬和夫 2011）

つまり、古墳を調べることで、古墳が分布する地域（北海道・東北の北と沖縄を除く）の政治秩序を解き明かす鍵となる。

1 香川県の古墳時代前期の様相

香川県の古墳時代中期の変化を古墳や埴輪を紹介する前に、その前段階である古墳時代前期の状況について紹介する。

古墳時代前期（約 1,600 年前）は、石清尾山古墳群（高松市）や津田古墳群（さぬき市）を中心に前方後円墳が築かれ、それらの古墳群には石を積み上げて墳丘を構築する香川県に多くみられる独自の積石塚古墳が採用されていた。さらに古墳には壺形土器や壺形埴輪のみを墳丘に樹立させるなど、円筒埴輪を立て並べる畿内の古墳とは、異なる様相を示す

など、香川の独自色が強く醸し出された時代と認識されている。また、香川県には古墳時代を通じて総数約 60 基の古墳が築かれるが、そのほとんどが古墳時代前期前半におさまり、当該期の造墓活動がいかに活発であったかがわかる。

その後、古墳時代中期（約 1,00 年前）はじめに富田茶臼山古墳（さぬき市）が築造された後、古墳時代前期以来築造が集中していた石清尾山古墳群や津田古墳群の前方後円墳の築造が停止し、以後香川の独自色の強かった古墳の様相が一変する。

古墳時代前期の主要古墳

石清尾山古墳群

稲荷山・峰山などの山頂部や尾根筋に、古墳時代前期に属すると考えられる古墳が前方後円墳 9 基、双方中円墳 3 基、墳丘長 50～100m 5 基、30～50m 5 基が築造される。最初期の古墳としては鶴尾神社 4 号墳が築かれ、その後古墳時代前期を通じて築造される。

石清尾山周辺の高松平野の古墳

高松平野の南部に位置する船岡山古墳、東部に位置する高松市茶臼山古墳があり、船岡山古墳は積石塚、高松市茶臼山古墳は盛土墳である。両者ともに共通する特殊な壺形の埴輪を採用している。

津田古墳群

14 基の古墳が津田湾沿岸に累代的に築かれ、一部の古墳は古墳時代中期初頭に位置付けられ、当該期まで継続して築かれる。石清尾山古墳群と同様に、当初は積石塚を墳丘構築に採用しているが、一時的に畿内中枢部の影響を強く受けた岩崎山 4 号墳が作られる。

快天山古墳

丸亀市南部に築かれた前方後円墳。3 基の石棺を埋葬施設に採用し、外表施設に円筒埴輪と、壺形土器・壺形埴輪が用いられている。

2 古墳時代中期の様相

香川県は古墳時代中期はじめに富田茶臼山古墳が築造されるのとほぼ同時に、各地域で作られていた前方後円墳の築造がみられなくなり、それまで古墳時代前期に活発であった、石清尾山古墳群や津田古墳群が途絶え、今まで古墳がみられなかった地域に、大型円墳や帆立貝形古墳が築かれるようになる。

それらの時代的背景として、古墳時代中期はじめの 5 世紀前葉に大型前方後円墳の舌島古墳群・古市古墳群（大阪府）が築造されはじめ、河内を中心とする畿内中枢の影響力が強くなった結果、各地の前方後円墳築造が規制された（小野山 1970）。という考え方がある。また、各地で前方後円墳の築造が停止したのちに、大型円墳や帆立貝形古墳が築造されるようになる。そしてそれらが成立する地域には、下記の 2 類型があるとされる（都出 1988）。

第1 類型

4世紀代に数世代にわたり前方後円墳を築いていたが、5世紀代には大型円墳や帆立貝形古墳が築造される。

第2 類型

4世紀代に顕著な古墳の築造がなされなかった地域、前代の首長墓系譜がみられなかった地域に突如として大型円墳や帆立貝形古墳が築かれる。

大型円墳

原間6号墳（東かがわ市）、高屋丸山古墳（観音寺市）、盛土山古墳（多度津町）、青龍古墳（善通寺市）

帆立貝形古墳

青塚古墳（観音寺市）、大塚神社古墳（綾川町）、（大井七つ塚4号墳（さぬき市））、（相作馬塚古墳（高松市））（津頭東古墳（綾川町））

渡来系・他地域要素

古墳時代中期の香川県の古墳には、いわゆる朝鮮半島や他地域に由来する埋葬施設や副葬品が確認されることがある。香川県では前述の大型円墳や帆立貝形古墳にしばしばみられる。

それらの朝鮮半島や他地域に由来する古墳は、古墳群形成の発端となる最初期に築造される原間6号墳（東かがわ市）、単独墳の様相を示し後続する古墳がない長崎鼻古墳（高松市）、川上古墳（さぬき市）、青塚古墳・高屋丸山古墳（観音寺市）、女木丸山古墳（高松市）がある。しかし、古墳群として継続する場合についても、渡来系要素や外来系要素がみられるのは一代限りであり、渡来系・他地域要素が次代に継続してみられない。

渡来系・外来系要素が確認できる古墳

渡来系要素

原間6号墳（さぬき市） → 木槨木棺墓、三累環頭太刀

女木丸山古墳（高松市） → 金製垂飾付耳飾

他地域要素

長崎鼻古墳（高松市） → 舟形石棺（北肥後型）

青塚古墳（観音寺市） → 舟形石棺（北肥後型）

高屋丸山古墳（観音寺市） → 九州系石室、舟形石棺（北肥後型）

3 埴輪

埴輪とは

埴輪は古墳時代の全時期を通じて作られ、古墳に樹立されてきた。特に古墳時代前期においては、各地域で地域独自の埴輪に類似するものが作られた。また、それらが樹立された古墳は、埋葬施設に供えられる副葬品とは異なり、一目でみて共通性を理解できるモノと認識できる。それらの埴輪の採用器種の変化をみれば、共通性や畿内や他地域との交流を理解できると考えられる。

埴輪採用器種の変化

香川県においては弥生時代の壺を祖型とする壺形土器や壺形埴輪が古墳時代前期前半を通じて主要な古墳に採用され、一部の古墳には特殊壺を祖型にした円筒埴輪を模した胴部をもつ船岡山1号墳や高松市茶臼山古墳で確認される埴輪が用いられている。

また津田古墳群をしてみると、前期前半には壺形土器や壺形埴輪が主に採用されているが、前期後半の岩崎山4号墳では楕円筒形埴輪や鱗付の埴輪が採用され、畿内の影響を著しく受けていることが分かる。しかし岩崎山4号墳に継続する古墳には、現状では楕円筒形埴輪や鱗付の埴輪はみられず、在地的な要素である壺形埴輪の採用が復活するなど、局所的な影響と考えられる。

一方古墳時代前期後半の丸亀平野南部の快天山古墳は壺形埴輪と円筒埴輪の両方が採用され、在地的な要素と畿内的な要素が混在している状況にある。

以上のように古墳時代前期前半には香川の独自色あふれる壺形土器や壺形埴輪の採用されていたものが、前期後半になると畿内の要素が強い古墳が現れはじめ、次第に埴輪祭祀の様相に変化が見え始める。

古墳時代中期はじめに、今岡古墳（高松市）、龍王山古墳（さぬき市）、津頭東古墳（綾川町）などの古墳には、円筒埴輪と壺形埴輪の両者が採用されているが、円筒埴輪のみを採用する富田茶臼山古墳（さぬき市）の築造を契機として、壺形埴輪の採用が停止し、以後、円筒埴輪のみを採用するようになる。これは古墳時代前期後半に見え始めた埴輪祭祀の変容が、古墳時代中期はじめに一つの画期を迎えたものと考えられる。

円筒埴輪の変化

古墳時代前期以来採用されていた壺形土器・壺形埴輪の採用停止後に、主流となる円筒埴輪の変化についてみておきたい。円筒埴輪の変化は、調整や突帯の形状、突帯間隔の設定技法、底部高と突帯間隔の差など、様々な要素で変化を判断している。香川県内の埴輪の変遷については、畿内の主要古墳での採用埴輪の特徴が香川県内の古墳でどのように出現しているかを基軸に、蔵本晋司氏によってまとめられている。ただし、香川県内の古墳から出土する埴輪は圧倒的に破片であり、全体形状を含め、情報が欠落している場合がほとんどであるため、調整技法の変遷に沿って理解するのは非常に困難と言わざるを得ない。

そこで、一定数出土する底部の破片からわかる調整技法以外の情報、底部径と底部高を用いて、時期の特定を試みてみた。円筒埴輪の底部径と底部高と時期との相関関係につい

ては、時期が新しくなるにつれ、底部径や底部高の縮小傾向や時期によるまとまりなどが指摘されている。一方で、直接的に畿内の指標の底部高と比較することはできない。それは、同時期と考えられる畿内の埴輪の底部高より香川県内の資料のほうが高く設定されており、香川の埴輪の一つの特徴とされているからである。そこで県内出土埴輪の底部高と底部径と比較することで、時期比定が可能であると考えられる。蔵本氏の県内の埴輪編年の基準とし、そこから県内出土埴輪の底部高と底径の関係の整理を試みた。

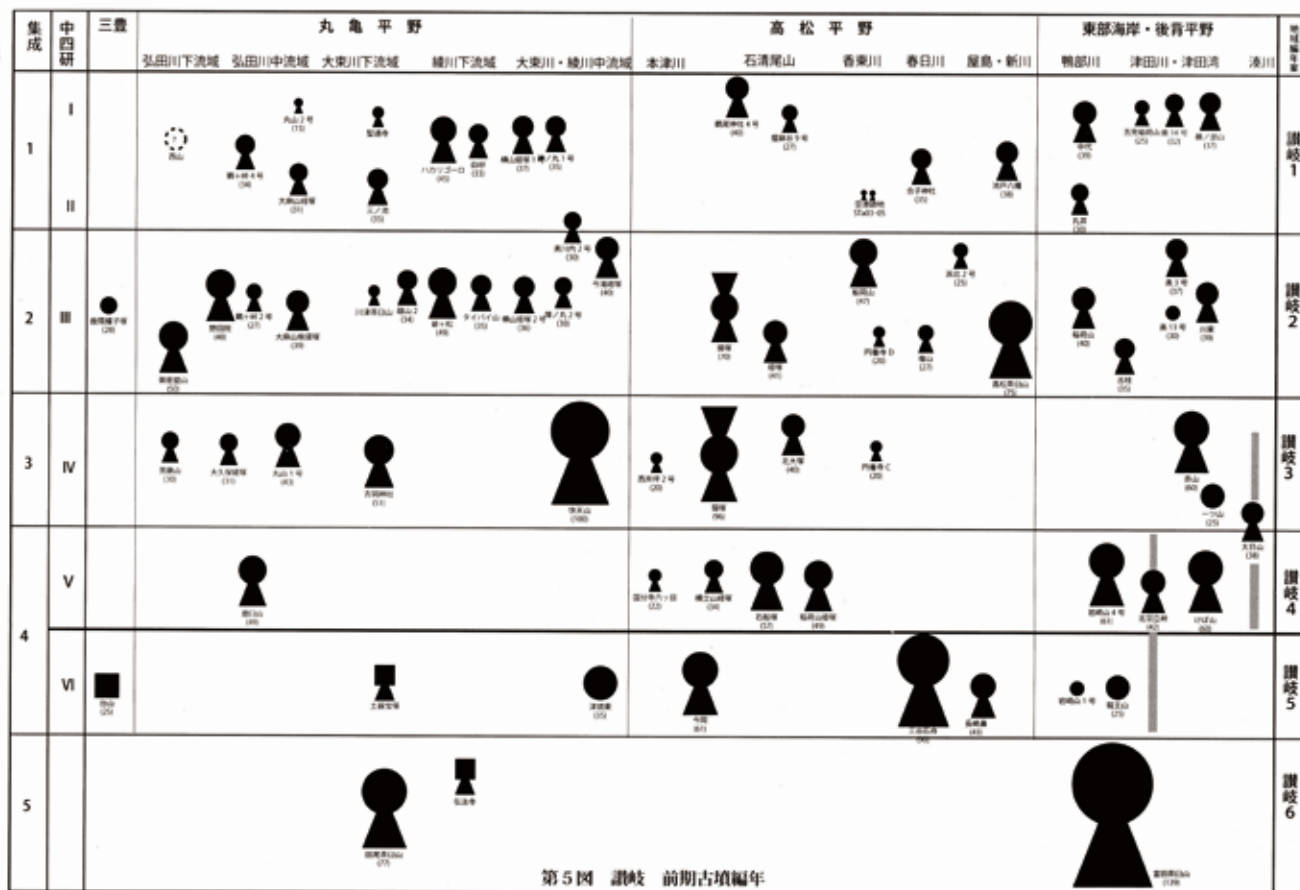
その結果、古墳時代中期の前半までは、底径や底部高が減少傾向にはあるものの、畿内の底部高の規格だけは中期後半以降にならないと受け入れていないことが分かった。壺形埴輪を使用しない埴輪祭祀を受け入れたものの、肝心の埴輪の最新技術については、受け入れが遅かったといえる。

おわりに

以上、香川県の古墳時代中期を概観してきたが、古墳時代前期以来の独自性（積石塚や壺形土器・埴輪）を担っていた稲荷山古墳群や津田古墳群は、富田茶臼山古墳築造以後、姿を消し、その代わりに渡来もしくは他地域に由来を持つ人物が、各地域の主要な古墳である大型円墳や帆立貝形古墳を造り、葬られた。しかしまったく地域の歴史の脈絡に関係がない場所に造墓をしたためか、累代的に渡来系・他地域由来の要素が続くところはほとんどなく、自らの由来を示すものがある古墳は一代限りである。

参考文献

- 小野山節 1970 「五世紀における古墳の規制」『考古学研究』第 16 号 3 卷
都出比呂志 1988 「古墳時代首長系譜の継続と断絶」『待兼山論叢』22 号
都出比呂志 1998 「1 墳丘の型式」『古墳時代の研究 7 古墳 I 墳丘と内部構造』
蔵本晋司 2012 「四国」『古墳出現と展開の地域相』古墳時代の考古学 2
蔵本晋司 2015 「四国における前半期古墳出土埴輪の基礎的研究」『香川県埋蔵文化財センター一年報告平成 27 年度』
蔵本晋司 2016 「香川県内出土の埴輪」『香川県埋蔵文化財センター一年報告平成 28 年度』
沼澤豊 2006 『前方後円墳と帆立貝古墳』
北條芳隆 2011 「墳丘築造企画論の現状」『墳墓構造と葬送祭祀』古墳時代の考古学 3
松本和彦 2010 「四国」『円筒埴輪の導入とその画期』中四国前方後円墳研究会
香川県教育委員会 2003 『埋蔵文化財試掘調査報告 XVI』
徳島文理大学文学部・高松市教育委員会 2019 『船岡山古墳群 II（古墳時代遺物編）』
高松市教育委員会 2018 『石清尾山古墳群（稲荷山地区）調査報告書』



第5図 讃岐 前期古墳編年

『前期古墳編年を再考するⅢ』～地域の画期と社会変動～ 2016 より

	西讃 大野原 三豊	丸亀平野 (西部) 弘田川下流域 弘田川中流域 大東下流域 綾川下流域 大東川・綾川中流域 本津川	高松平野 (東部) 石清尾山 香東川 春日川 屋島	東讃 鴨部川 津田川・津田湾 湊川	島嶼部	甲冑 川畑 2016	土器 蔵本 2021	埴輪 蔵本 2017 2018
V期			石船塚 (57m) 姫塚 (49m)	岩崎山 (61m) けぼ山 (60m)				讃岐Ⅱ-1
VI期		田尾茶白山 (79m)		龍玉山 (25m) 岩崎山 1号 (15m)	富丘頂上 (20m)	3・4期	中1期	讃岐Ⅱ-2
VII期			今岡 (60m) 長崎鼻 (43m)	富田茶白山 (139m) 阿前地神社 (90m. ?)		5期	中2期	讃岐Ⅲ-1
VIII期			津頭東 (35m)	富田茶白山 2号 (14m) 富田茶白山 3号 (14m) 原岡6号 (30m)		6期	中4期	讃岐Ⅲ-2
IX期	丸山 (35m) 大塚 (25m)	青龍 (42m)	城山 1号墳 (13m) 2号墳 (13m)		女木丸山 (15m)	7・8・9期	中5期	讃岐Ⅳ-1
X期	青塚 (44m)	盛土山 (38m)		川上 (22m) 樋端 2号 (8.7m) 原岡 4号 (13.3m)		10期	中6期	讃岐Ⅳ-2
XI期			別宮北 2号 (20m) 岡の御堂 1号 (13m) 末則 (24.6m)			11・12期		讃岐Ⅳ-3
XII期	赤岡山 3号 (24m)		岡の御堂 2号 (12m) 相作馬塚 (16m+)	大井七ツ塚 4号 (22m)		11・12期		讃岐Ⅴ-1
X III期	ひぎご塚 (44m)	王墓山 (46m)	津頭西 (7m ?)					讃岐Ⅴ-2

各 部 の 特 徴 編 年 古 墳 名	外 面 調 整		内 面 調 整		底 部 調 整	タ ガ			ス カ シ 孔		鏡 有 無 斑	成 無 黒 斑	備 考
	第1次 タナ コハケ	第2次 タナ コハケ	ケ ズ リ	ナハ アケ		形 状	タガの孔数	3 個 以上	2 個				
										A種			
I 寺戸大塚													ごく一部にヨコハケと2孔
妙見山													
平尾城山													ごく一部にヨコハケ
II 園部堀内													一部にB種ヨコハケ
島居前													
八幡茶白山													1形スカシ孔
III 二子山北													
金比羅山													
平川草塚													ごく一部にA種ヨコハケ
IV 芭蕉塚													
青塚													
赤塚													
V 切主山1号													
青山1号													
物業女塚													最下段タガに断続ナダ技法

川西宏幸 1989 「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号より

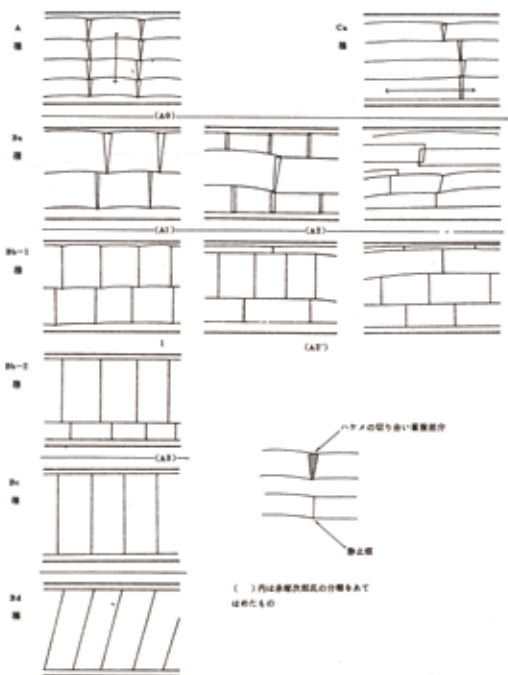


fig.39 円筒埴輪外面2次調整凸帯間ヨコハケ充足模式図

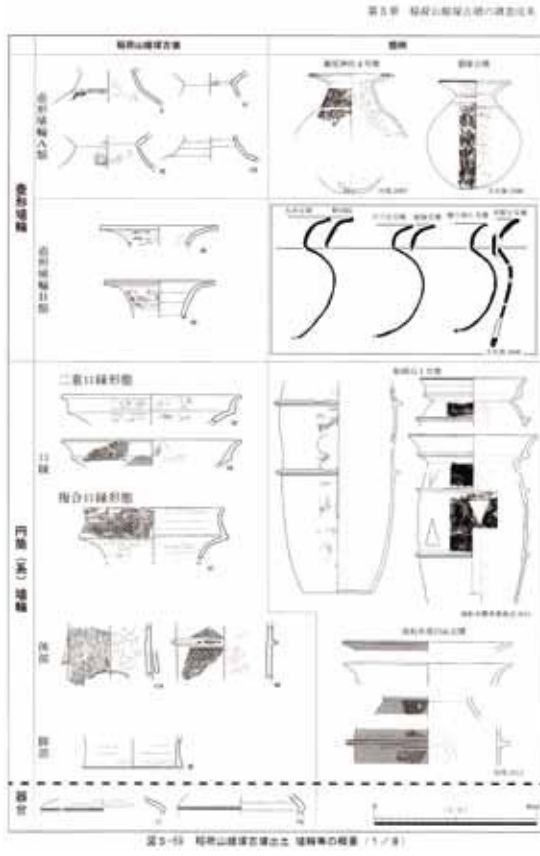
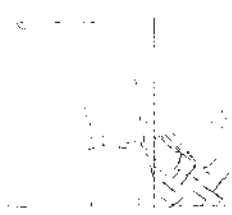


図3-10 稲荷山埴輪古墳出土 埴輪集の概要 (1/2) (米)

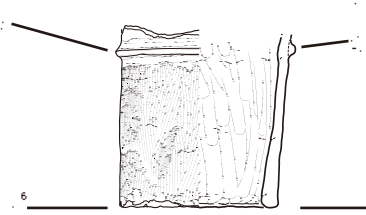
一瀬和夫 1988

「古市古墳群における大型古墳埴輪集成」
『大水川河川改修にともなう発掘調査概要V』
大阪府教育委員会

高松市教育委員会 2018 『石清尾山古墳群（稲荷山地区）調査報告書』より



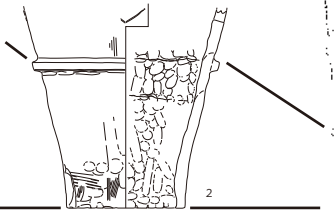
快天山古墳
1期-5



田尾茶白山古墳
2期-2



中間西井坪遺跡
3期-1



津頭東古墳
3基-2



大亀古墳
5期-1

丸山古墳 観音寺市室本町

〈文 献〉 観音寺市教育委員会 1999 『観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書 丸山古墳』
観音寺市教育委員会 1999 『観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書 丸山古墳Ⅱ』
観音寺市史誌 1985



横穴式石室 (1/10)



舟形石棺 (1/10)

女木丸山古墳 高松市女木

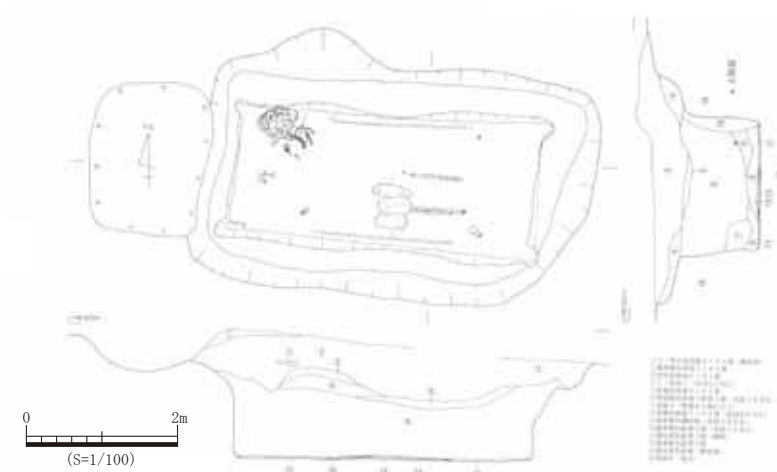
〈文 献〉 森井正 1966 「高松市女木丸山古墳」『香川県文化財調査報告』第8 香川県教育委員会
香川県教育委員会 1983 『新編香川叢書 考古編』



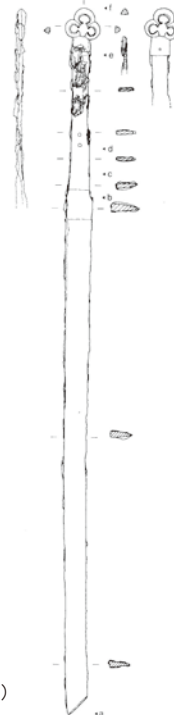
垂飾付耳飾
(S=1/1)

原間6号墳 東かがわ市川東

〈文 献〉 香川県埋蔵文化財調査センター 2002 『原間遺跡Ⅱ』四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 42

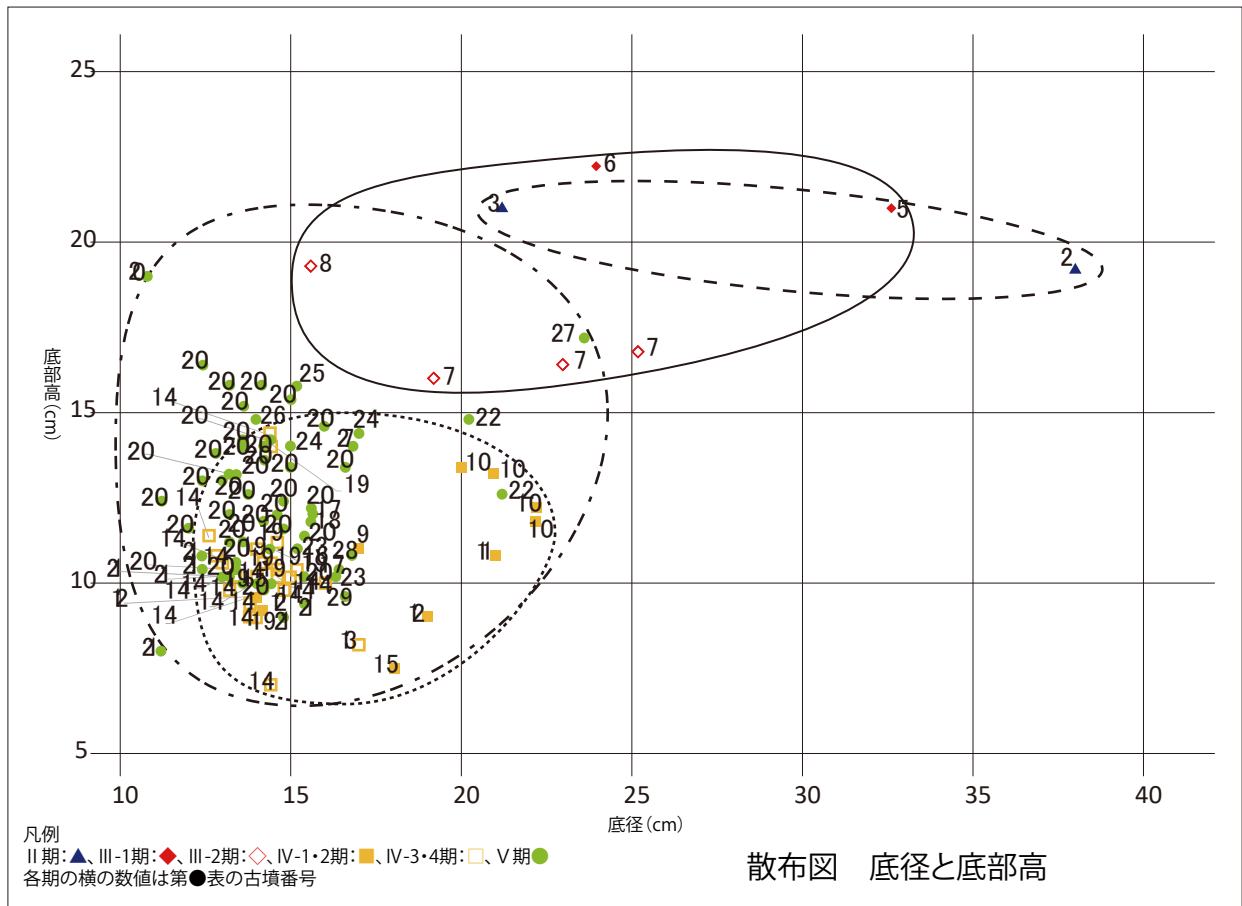
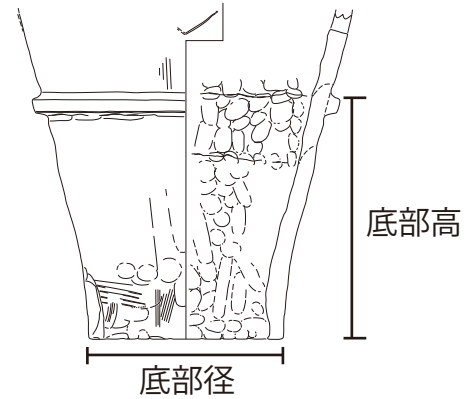


主体部平・断面図 (S=1/100)

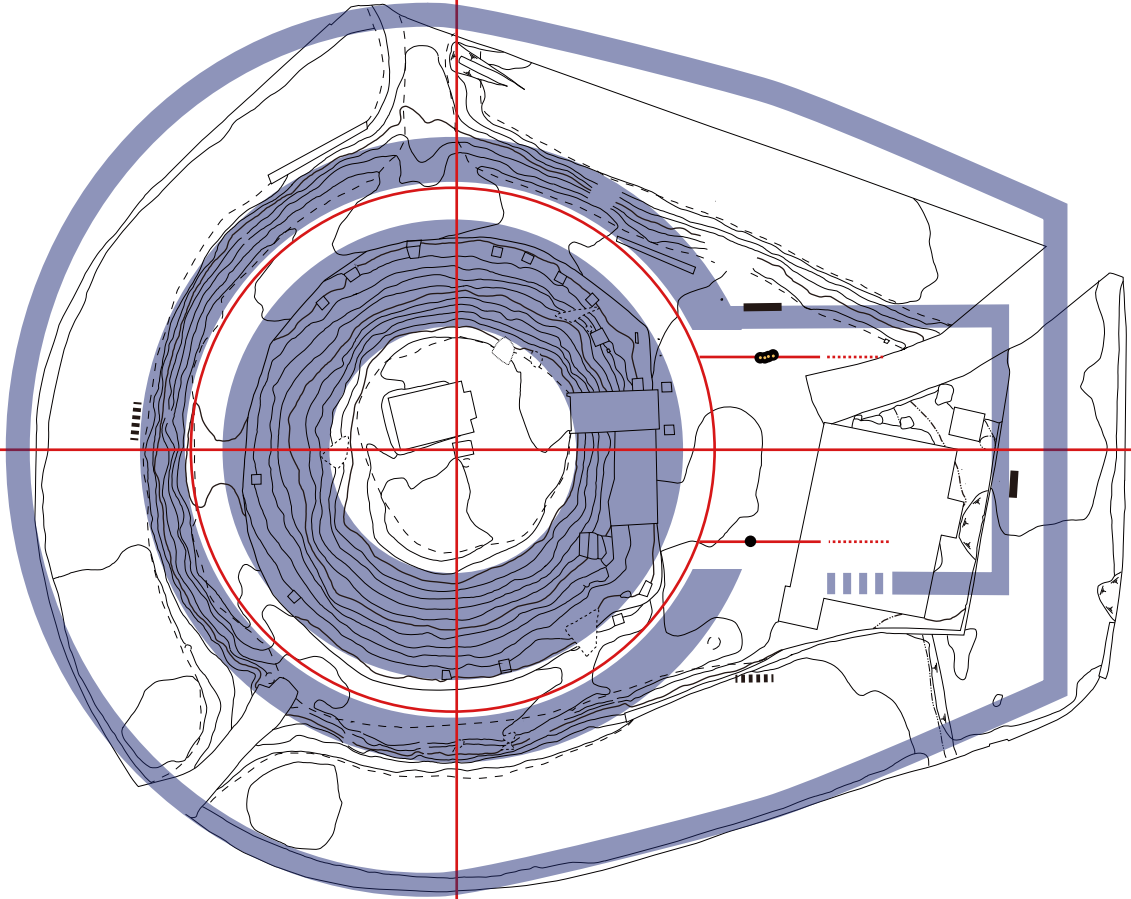


刀 (S=1/10)

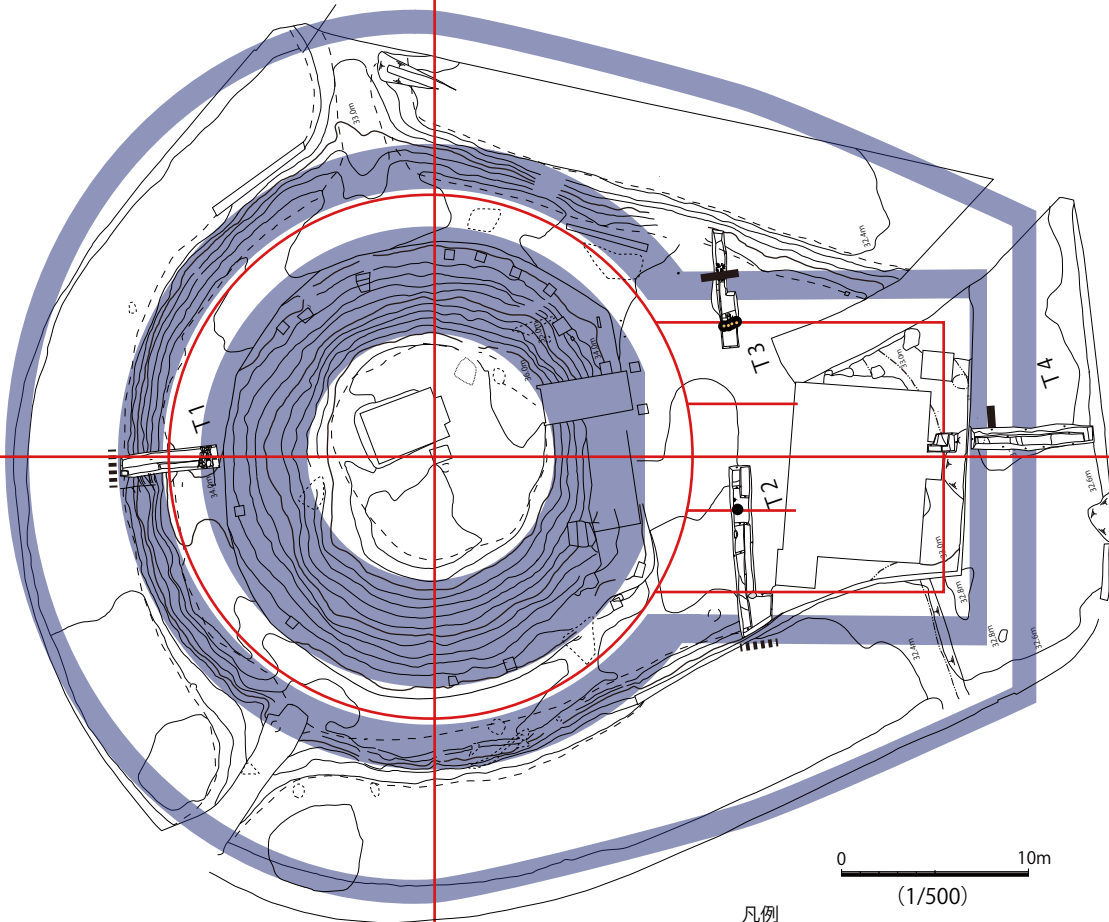
埴輪時期	古墳名	表番号	底部径	底部高	埴輪時期	古墳名	表番号	底部径	底部高
I期-5	快天山古墳	1	28.6	12.6+	V期-1	大亀古墳	20	10.8	18.6~19.0
I期-5	快天山古墳	1	38.8	16.2+	V期-1	大亀古墳	20	11.2	12.4
I期-5	快天山古墳	1	33.6	10+	V期-1	大亀古墳	20	12	11.6
I期-5	快天山古墳	1	33.2	13.4+	V期-1	大亀古墳	20	12.4	16.4
I期-5	快天山古墳	1	38.8	11+	V期-1	大亀古墳	20	12.4	13
I期-5	快天山古墳	1	40.6	15.2+	V期-1	大亀古墳	20	12.8	13.2~13.8
II期-1	岩崎山4号	2	38	19.2	V期-1	大亀古墳	20	13	13
II期-2	田尾茶臼山古墳	3	21.2	21	V期-1	大亀古墳	20	13.2	11.2
III期-1	今岡古墳	4	27.6	17+	V期-1	大亀古墳	20	13.2	14.2~15.8
III期-1?	中間西井坪 谷3・上層遊離	5	32.6	21	V期-1	大亀古墳	20	13.2	11.6~12
III期-1?	中間西井坪 大形堅穴建物	6	24	22.2	V期-1	大亀古墳	20	13.2	13.2
III期-2	富田茶臼山古墳2号陪塚	7	19.2	16	V期-1	大亀古墳	20	13.4	9.6~10.2
III期-2	富田茶臼山古墳2号陪塚	7	23	16.4	V期-1	大亀古墳	20	13.4	10.4
III期-2	富田茶臼山古墳2号陪塚	7	25.2	16.8	V期-1	大亀古墳	20	13.4	13.2
III期-2	津頭東古墳	8	15.6	19.3	V期-1	大亀古墳	20	13.4	10.2~10.6
III期-2	津頭東古墳	8	25.6	15+	V期-1	大亀古墳	20	13.6	14.2~15.2
IV期-1	丸山古墳	9	17	11	V期-1	大亀古墳	20	13.6	14
IV期-1	大塚古墳	10	20	13.4	V期-1	大亀古墳	20	13.6	11.2
IV期-1	大塚古墳	10	21	13.2	V期-1	大亀古墳	20	13.8	12.6
IV期-1	大塚古墳	10	22.2	11.8	V期-1	大亀古墳	20	14.2	15.8
IV期-1	大塚古墳	10	22.2	12.2	V期-1	大亀古墳	20	14.2	11.2~11.8
IV期-2	中東遺跡(中東古墳)	11	21	10.8	V期-1	大亀古墳	20	14.2	9.8
IV期-2	盛土山古墳	12	14	9.6	V期-1	大亀古墳	20	14.2	13.6
IV期-2	盛土山古墳	12	14.2	9.2	V期-1	大亀古墳	20	14.2	14
IV期-2	盛土山古墳	12	19	9	V期-1	大亀古墳	20	14.4	14.2
IV期-3	中間西井坪3号墳	13	17	8.2	V期-1	大亀古墳	20	14.6	12
IV期-3	別宮北2号墳	14	12.6	11.4	V期-1	大亀古墳	20	14.8	11.6
IV期-3	別宮北2号墳	14	12.8	10.8	V期-1	大亀古墳	20	14.8	12.4
IV期-3	別宮北2号墳	14	13	10.2~10.6	V期-1	大亀古墳	20	15	15~15.4
IV期-3	別宮北2号墳	14	13.2	9.8	V期-1	大亀古墳	20	15	13.4
IV期-3	別宮北2号墳	14	13.2	10.2	V期-1	大亀古墳	20	15.4	10.2
IV期-3	別宮北2号墳	14	13.8	9	V期-1	大亀古墳	20	15.4	11.4
IV期-3	別宮北2号墳	14	13.8	9.4	V期-1	大亀古墳	20	15.6	12.2
IV期-3	別宮北2号墳	14	14	10	V期-1	大亀古墳	20	16	14.6
IV期-3	別宮北2号墳	14	14	9.8~10.2	V期-1	大亀古墳	20	16.6	13.4
IV期-3	別宮北2号墳	14	14.4	9.6	V期-1	大亀古墳	20	12.6~13	14.2
IV期-3	別宮北2号墳	14	14.4	10	V期-2	相作馬塚古墳	21	11.2	8
IV期-3	別宮北2号墳	14	14.4	7	V期-2	相作馬塚古墳	21	12.4	10~10.8
IV期-3	別宮北2号墳	14	14.6	10.2	V期-2	相作馬塚古墳	21	12.4	9.6~10.4
IV期-3	別宮北2号墳	14	14.6	10.6~11.2	V期-2	相作馬塚古墳	21	13	10.2
IV期-3	別宮北2号墳	14	14.8	9.8	V期-2	相作馬塚古墳	21	13.2	9.6~10.2
IV期-3	別宮北2号墳	14	15	10.2	V期-2	相作馬塚古墳	21	14.8	8.8~9.0
IV期-3	別宮北2号墳	14	16	10	V期-2	相作馬塚古墳	21	15.4	9.4
IV期	青塚古墳	15	18	(7.5)	V期-2	ひさご塚古墳	22	20.2	14.8
IV期	青塚古墳	15	14	(10)	V期-2	ひさご塚古墳	22	21.2	12.6
IV期	青塚古墳	15	14	(10)	V期-3	香色山2号埴輪棺	23	16.3	10.2
IV期	神前八幡古墳	16	14.4	11	V期-3	香色山2号埴輪棺	23	15.2	11
V期-1	大井七ツ塚6号墳	17	16.4	10.4	V期-3	香色山3-4号埴輪観	24	17	14.4
V期-1	大井七ツ塚6号墳	17	15.6	12	V期-3	香色山3-4号埴輪観	24	15	14
V期-1	仲戸東遺跡	18	15.6	11.8	V期-3	香色山1号埴輪観	25	15.2	15.8
V期-1	別宮北1号墳	19	13.6	10	V期-3	公文山古墳群	26	14	14.8
V期-1	別宮北1号墳	19	14	11	V期-3	薙山4号墳	27	16.8	14
V期-1	別宮北1号墳	19	14	9	V期-3	薙山4号墳	27	23.6	16~17.2
V期-1	別宮北1号墳	19	14.2	10.6	V期	大井七ツ塚5号墳	28	16.8	10.8
V期-1	別宮北1号墳	19	14.4	14.4	V期	大井七ツ塚1号墳	29	16.6	9.6
V期-1	別宮北1号墳	19	14.4	10.6	※快天山古墳・今岡古墳は、底部高が判明する資料がなく、計測した値は、底部残存高である。+表記は、それ以上の高さであることを示した。				
V期-1	別宮北1号墳	19	14.4	12.2~14	※青塚古墳は、埴輪が取り上げられていないため、埴輪の樹立状態の立面図や平面図から計測した参考値である。				
V期-1	別宮北1号墳	19	14.6	10.4	※埴輪の時期は蔵本2016~2018を基準としている。				
V期-1	別宮北1号墳	19	15.2	9.8~10.4					



墳丘主軸ライン



墳丘主軸ライン



0 10m

(1/500)

凡例

— 埴輪列

■ 墳丘斜面及び周濠立上りライン